

編集後記

今月号の特集は安部幸雄先生の企画による「手・手関節鏡手術の現状と未来」である。本誌の特集記事の大半は編集委員によりテーマが吟味され、その領域で第一人者と目される研究者に企画を依頼することで作られている。しかし、今回の企画は安部先生ご自身が金原出版に提案され、編集委員により了承されてスタートした。私は編集室の山下さんに安部先生の申し出を伺った際、内心すこぶる喜んでいた。というのも、このテーマは私がこの春に主催した日本手外科学会において安部先生に依頼をしてシンポジウムをお願いしていたものであり、私にとっても大変思い入れがあったからである。

周知の事実であるが関節鏡は日本が世界に先駆けて開発を進め実用化した技術である。世界初の実用的関節鏡の開発者である渡辺正毅は1962年には世界で初めて関節鏡下半月板切除を成功させ、膝関節や肩関節における内視鏡手術の急速な発展を先導した。渡辺は1970年にSelfoc rod lensを用いた小関節鏡である渡辺式24号関節鏡を開発し、すでに手指の関節などの小関節の鏡視にも成功している。しかし、ワーキングスペースの広い膝や肩関節とは異なり手や足ではその後も関節鏡は診断に留まり、なかなか治療機器としての存在感を高めることができなかった。だが最近になりビデオシステムや小関節用治療デバイスが急速に進歩し、手足の小関節に対しても関節鏡下手術が急速に発達してきた。

本誌58巻(2015年)8月増大号では、足の外科における関節鏡下手術の発展が詳しく紹介された。当然のことだが、世界では手外科においても関節鏡下手術の適応は急速に拡大している。しかし、現在最も精力的に小関節鏡の普及に努めているArthrex社によれば、日本足の外科学会と比較して日本手外科学会における関節鏡下手術に対する熱は随分低いということだった。そこで学会の企画に際して安部先生に直接連絡をとり関節鏡手術の普及に繋がるようなシンポジウムの企画を依頼したのだが、手外科学会における反響は上々で、その後Arthrex社への製品問い合わせやハンズオンセッションの開催依頼が急速に増加していると伺った。今回の特集記事を契機に手外科領域以外の先生がたにも手・手関節における関節鏡下手術の実際を知っていただき、更に普及が進むことを期待している。

本号の「新しい医療技術」のコーナーでは大江和彦先生による「医療におけるICT活用のイノベーション」の中で昨今話題となっているディープラーニングの医療への応用が紹介されている。泌尿器科では内視鏡からロボット手術へと急速な治療技術のシフトが起こったが、イギリスではベテランロボット外科医の操作を人工知能で学習させ、初心者でもベテランと変わらぬ手術操作が実現できる第2世代ロボットサージャリー技術の開発が進んでいると聞く。関節外科の世界にもこの流れが波及する可能性を感じるのは私だけだろうか。(平田 仁)

「整形・災害外科」第61巻 第1号(1月号) 2018年1月1日発行(毎月1回1日発行) 定価(本体2,500円+税) 年間購読料金 定価(本体39,400円+税) 〔年間13冊(臨時増刊号、増大号を含む)の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03(3811)7165〔編集室直通〕 TEL 03(3811)7184〔営業部直通〕 FAX 03(3813)0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600
---	--

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、二次的著作物の利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。